



自己評価の基準【A】十分達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

目指す学校像	
<p>(1) 主体的な学習活動や特別活動、地域連携などの特色ある教育活動を通じて、規範意識を育み、健康や体力を充実させ、主権者として必要な資質・能力を確実に伸ばし、社会の中核となる人材を育成する学校</p> <p>(2) すべての教育活動を通じて「主体性」を持った生徒を育てる学校</p>	
中期的目標と達成に向けた方策	
<p>【目標1】学力向上と希望進路の実現</p> <p>(1) 思考力、読解力、文章力、情報収集・活用力を育成し、学力向上を図る。</p> <p>① 模擬試験やスタディサポートの結果を分析し、生徒の課題に応じた指導を行う。</p> <p>② 家庭学習を前提とした授業づくりを通して、生徒が主体的に家庭での自主学習に取り組む習慣をつけさせる。</p> <p>③ 一人1台端末を活用した学習指導の充実を図り、生徒の学力を向上させる。</p> <p>④ 長期休業期間等における、生徒の学力向上を目的とした補習・講習等の講座を強化する。</p> <p>(2) 生徒が自ら高い目標を設定して実現する進路指導を行う。</p> <p>① 一般受験を推奨する指導を継続し、模擬試験等の分析結果を有効に活用し、個に応じた出願指導を行う。</p> <p>② 「進学指導研究校」の指定を活用し、3年間を見通した意図的・計画的な進学指導を行う。</p> <p>③ 「進路の手引き」等を活用し、進路ガイダンス等の進路行事を、適切な時期に実施する。</p> <p>(3) 豊かな国際感覚の育成（英語教育推進）</p> <p>① 英語技能検定を全学年で実施し、英語技能強化とともに大学受験に必要な資格取得を目指す。</p> <p>② 第1学年の語学研修として、TGGでの校外学習を実施する。</p> <p>③ 5年度より、1・2学年を対象とした福島県のプリティッシュヒルズで宿泊語学研修を実施する。</p> <p>④ 「人間と社会」、「総合的な探究の時間」、LHR等を活用し、東京都国際交流コンシェルジュや在京大使館等を利用した異国文化理解、交流活動、講演等を推進する。</p> <p>⑤ 「海外学校間交流推進校」として交流相手校と交流内容を検討するために、他校の実践事例を参考にし、令和6年度以降の交流内容を決定する。</p> <p>(4) 読書活動を通じて語彙量の増大や思考力・判断力・表現力の向上を目指す。</p> <p>① 学校図書館と教科等が連携し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動等での利活用を図る。</p> <p>② 教職員・生徒による推薦図書を紹介やビブリオバトルの実施等、読書活動を推進する。</p> <p>③ ICT機器を配備し、協働的な学びや探究活動を推進する図書館環境を整備する。</p>	
目標の達成に向けた具体的方策	具体的な数値目標に対する自己評価と改善策
<p>(1)③ 一人1台端末を活用した授業の研究として、教科横断的に相互授業観察や若手教員育成のための研究授業等に、<u>年3回以上参加</u>する。</p> <p>(1)④ 年間通じた夏期・冬期講習、補習等の講座を延65講座以上、講習時間を延400時間以上（Web配信含む）を目指す。</p> <p>(2)① <u>GMARCH以上</u>の大学への現役合格者数を延70人以上、<u>中堅以上の大学（日東駒専＋成成明國独武）</u>の合格数を、延160名以上とする。</p> <p>(2)② 年3回以上の模試分析会、ケース会議の分析結果を授業に活かし、3学年最終模試</p>	<p>(1)③ 【B】若手教員年次研修、中堅教諭等資質向上研修、進学指導協議会参加校での授業研究に、<u>概ね年3回以上</u>の参加があった。6年度は他校の授業も含めて多くの授業の参観実施を推進する。</p> <p>(1)④ 【C】夏期講習51講座150時間、冬期講座12講座65時間、年間63講座、215時間実施した。実施時間は目標に達しなかったが、受講者数は延べ800人増であった。</p> <p>(2)① 【B】<u>国公立(2)＋早慶上理(8)＋GMARCH(42)、計52人、中堅以上の大学（日東駒専＋成成明國独武等）計190人、上位校の合格数は目標を下回ったが、中堅以上校は目標を超えて大幅に増加した。</u></p> <p>(2)② 【C】模試分析会とケース会議を合わせて<u>年4回実施、3年模試 文系49.6、理系48.0</u></p>

<p>で、平均点偏差値を<u>文系科目 52 以上、理系科目 50 以上</u>とする。</p> <p>(2)③ 大学入学共通テストの<u>受験率 80%以上</u>の定着を図り、各科目得点で、<u>全国平均点以上</u>とする。</p> <p>(3)① 英語技能検定 <u>2 級以上</u>合格者目標 <u>3 年生 50% (100 人)、2 年生 40% (90 人)、1 年生 30%(60 人)</u></p> <p>(4)① 探究的学習や課題学習等において、<u>図書館</u>を年 2 回以上活用する。</p> <p>(4)② 1・2 年生徒の読書推進に取り組み、<u>不読率を 9%未満</u>とする。</p>	<p>成績が伸び悩んだ原因を分析して 7 年度入試の指導に活かす。</p> <p>(2)③ 【A】 共通テスト受験率 89.0%、共通テスト 19 科目中平均点以上達成 6 科目、社会科は全科目と理科 1 科目で平均を上回った。ほぼ平均点である偏差値 49 台が 6 科目ある。2 科目は偏差値が 40 台前半であった。偏差値が低い科目の学力向上策を講じる。</p> <p>(3)① 【B】 3 年生 <u>2 級以上合格者 24.2% (47 人)</u>、<u>2 年生準 2 級以上 47.2% (110 人)</u>、<u>1 年生準 2 級以上 50.3%(99 人)</u> 1・2 年生で良好な結果を得た。</p> <p>(4)① 【A】 6 教科において年 2 回以上の図書館活用があった。更なる学習環境の整備を行い、探究学習の環境に適した図書館として行く。</p> <p>(4)② 【C】 <u>不読率 11.7%</u>となり、目標を達成できなかった。読書習慣を身に付けさせる方策を検討・実施する必要がある。</p>
--	--

【目標 2】活力のある学校生活の実現

<p>(5) 特別活動の充実に向けた指導を継続する。</p> <p>① 部活動の一層の活性化と学校行事の充実により、生徒の学校への帰属意識を高める。</p> <p>② 適切な活動時間及び休養日等を設定し、合理的でかつ効率的・効果的な部活動を推進する。</p> <p>(6) 基本的な生活習慣の確立と規範意識を醸成する指導を継続する。</p> <p>① 「都立高校生活指導指針」に基づく指導により、ルールやマナーを遵守する態度を育てると共に、生徒の生命尊重の指導や自殺防止のための教育を推進し、体罰・いじめを根絶する。</p> <p>② 遅刻防止、挨拶の励行、身だしなみ等の指導を、全教員の共通理解に基づき実施する。</p> <p>(7) 「学校健康推進計画」に基づく学校保健指導の充実により、健康や体力の向上を目指す。</p> <p>① 「生涯の健康に関する理解促進事業」を活用し、保健授業や専門医の講話による保健指導の充実、学校保健委員会の活用、学校医との連携等を継続する。</p> <p>② 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、楽しみながら運動やスポーツに参画し、体力向上を目指す。</p> <p>③ 保健通信や S C だより、感染症予防対策等の情報発信を適宜実施する。</p> <p>(8) 発達障害のある生徒における特別な支援等、特別支援教育に関する知識、理解を深め、組織的な取組を推進する。</p> <p>① 都立版エリアネットワークを活用し、特別支援教育コーディネーターの地区情報交換会への派遣、校内研修（情報共有）を実施する。</p> <p>(9) 組織的な美化指導の充実を図り、校内の環境整美に取り組む。</p> <p>① 生徒の校内美化に対する意識を高め、経年変化によって生じた教室、廊下、階段の汚れの除去に取り組む。</p> <p>② 全教職員による教室等の学習環境の整備やリサイクルに関する指導を強化する。</p>
--

目標の達成に向けた具体的方策	具体的な数値目標に対する自己評価と改善策
<p>(5)① 部活動への加入率を 100%とする。</p> <p>(6)① <u>体罰・いじめ・生命に関わる重大事故 0 年間の遅刻率を 2%未満</u>とする。</p> <p>(7)① 産婦人科医を招聘し、ライフプランと健康との関わりに関する研究授業・協議を<u>年 1 回以上実施</u>する。</p> <p>(7)② 全学年男女共に東京都統一体力テストで<u>全国平均以上</u>を目指す。</p>	<p>(5)① 【B】 部活動加入率 99%であった。</p> <p>(6)① 【B】 <u>体罰・いじめ・重大事故 1、遅刻率 1.99%、遅刻指導を改善して遅刻率低減</u>を図る。</p> <p>(7)① 【A】 産婦人科医を招聘し、性教育についての保健講話を 1 回実施した。引き続き次年度も保健講話を実施する。</p> <p>(7)② 【B】 2・3 年生の女子で体力の向上が見られたがそれ以外は昨年度より<u>全国平均を下回った種目が増えた</u>。そのため、<u>全学年での延べ 48 種目中 26 種目</u></p>

<p>(9)① 校内美化に関する学校評価アンケートでの肯定的回答を80%以上とする。</p>	<p>しか全国平均以上を達成できなかった。特に握力は全学年男女すべてで全国平均より低かった。 (9)①【A】教職員 86.2%、生徒 85.6%、保護者 92.0%が肯定的な意見ではあるが、教室の環境整備には学年間で課題がある。学校としての共通理解が必要である。</p>
<p>【目標3】地域等との連携と情報発信の実現</p> <p>(10) 連携型中高一貫教育を活用した地域等との連携を強化する。</p> <p>① 渋谷区のNPOと連携した障害者理解や都のアスリート派遣授業等を活用し、「学校2020レガシー」を継続する。</p> <p>② ボランティア・サポート・チームを生徒の主体的活動として位置づけ、校内外で社会貢献活動のできるチームとして、ボランティア・マインドを醸成する。</p> <p>(11) 教育活動に関する情報発信と、募集対策のための広報活動を強化する。</p> <p>① 様々な媒体を活用した教育活動等の情報発信により、本校の教育内容に理解のある生徒の募集に努める。</p> <p>② ホームページとSNS等を活用し、教育活動に関する情報を随時発信する広報活動を推進する。</p> <p>③ 学校見学会・施設見学会を実施するとともに、学校案内を中学校・学習塾への配布、外部団体が開催する説明会等にも可能な限り参加する。</p>	
<p>目標の達成に向けた具体的方策</p>	<p>具体的な数値目標に対する自己評価と改善策</p>
<p>(10)① 「学校2020レガシー」に基づく体験活動を、年間2回以上実施する。</p> <p>(11)① 推薦に基づく選抜での応募倍率4.5倍以上、学力検査に基づく選抜での応募倍率2.0倍以上を目指す。</p> <p>(11)② 外部配信300回以上（HP更新240回・ツイッター60回）、塾訪問200校以上、見学・説明会等の来校者数3200人以上、オンデマンド配信等のアクセス数1500回以上を目指す。</p>	<p>(10)①【C】1学年でパラリンピアン講演会を1回実施した。</p> <p>(11)①【B】推薦に基づく選抜での応募倍率4.20倍、学力検査に基づく選抜での応募倍率2.16倍となり、年間の募集対策での成果があった。</p> <p>(11)②【C】外部配信275回（HP更新225回・ツイッター50回）、塾訪問124校、見学・説明会等の来校者数4810人、オンデマンド配信のアクセスは200回。オンデマンドのアクセスを増やすためにコンテンツを充実させる。</p>
<p>【目標4】持続可能な学校づくりの実現</p> <p>(12) 経営企画室と各分掌や各教科等と連携した効率的な教育活動・物品購入の推進</p> <p>① 経営企画室と管理職・分掌等が協働して、本校の課題の解決を目指す予算編成と執行を実現する。</p> <p>② 今年度の予算執行状況を踏まえ、次年度予算編成指針を10月中に策定する。</p> <p>(13) 計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。</p> <p>① 学級経営に副担任も参画し、担任の補佐、学年庶務業務等の支援を行い、組織的に業務の効率化を図る。</p> <p>② 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき、業務の縮減と効率化を図り、実働勤務時間と在校等時間の縮減に取り組む。</p>	
<p>目標の達成に向けた具体的方策</p>	<p>具体的な数値目標に対する自己評価と改善策</p>
<p>(13)② 月当たりの時間外在校等時間45時間超過の教職員を一月10%未満とする。月一日以上の年休取得を目標とする。</p>	<p>(13)②【C】時間外在校等時間45時間超過の教職員は昨年度より約8%減の22.6%、年間年休取得日数19.1日（教職員46名対象）、在校等時間45時間超過の教員を一月10%未満にするには、更なる業務の効率化を推進する必要がある。</p>

【自己評価の評定の総括】 A = 3項目 / B = 7項目 / C = 6項目